



地元、玄海中学校2年生による『浦安舞』

地元、玄海中学校2年生による『浦安舞』
神島宮司が国
進した。本殿へ参
館正面玄関前庭に
列立し、

春季大祭 齋行



境内の桜花も咲き始め、鶯のさえずりも一段と研ぎのかかった三月三十一日から三日間に亘り春季大祭が斎行された。

代並びに協力会奉仕の下、注連縄・紙垂の新調、幟立て、各所の紫幕張り等の大祭準備が行われ境内の装いも整った。

三十一日午後五時から『総社地主祭』同六時から『宵宮祭』が夕暮れの中齋行され、明日からの大祭が無事齋行されるよう敬虔なる祈りが捧げられた。

四月一日午前十一時、神島宮司以下神職、氏子奉幣使、鎮国寺住職立部祐道氏、風俗舞奉仕者、浦安舞奉仕者、総代等が齋館正面玄関前庭に列立し、本殿へ参進した。

5月祭事暦

- 毎月1・15日 月次祭
午前10時 高宮祭 第二宮・第三宮祭
午前11時 総社祭
- 5月 3日 午前11時 沖・中両宮春季大祭
於…大島 中津宮
- 5月 5日 午前11時 五月・浜宮祭
午前10時30分 浜宮祭
午前11時 五月祭
於…宗像市江口 五月宮
- 5月27日 沖津宮現地大祭
午前6時 大島港 出港
於…沖ノ島 沖津宮

宗像大社 春季大祭

全国津々浦々の神社における恒例祭典は『稲作(農耕民族である日本人は稲作を中心に生活してきたの生育に沿って、『祈年祭(豊作を祈る)』や『秋祭り(収穫感謝)』が行われるが、現在当大社に祈年祭という呼称の祭典はない。江戸時代に記された『宗像事蹟考』には「四月朔日、御作礼祭」とあり、四月に五穀豊穡を祈る農耕始の祭典が行われていたことを記録している。戦前は四月中旬に中祭式で行われていたが、戦後四大祭の設置に伴い祈年祭と合し、大祭式で執り行われている。つまり当大社では祈年祭にあたるのが、毎年四月一・二日の二日間亘って執り行われる春季大祭である。

四月といえは入学・入社と新年度が始まる何かと忙しい月である。花では桜の季節である。今年の桜の開花は平年より若干遅かったようである。

宗像大社 春季大祭

見事に奉納され、春を告げる神苑に悠遠な平安絵巻が繰り広げられた。



神具・装束 結婚式場調度品

福岡店 〒812-0045 福岡市博多区東公園2-31
電話 福岡(092)651-9456番

本店 〒600-8231 京都市下京区油小路六条北入
電話 (075)341-3341(代)~4番
(075)343-3341番

井筒

木組の家 匠の技

総合建築業 株式会社 弘江組

〒811-3406 福岡県宗像市稲元1025 電話(0940)32-2567

取された奉仕者に対し、当大社より感謝状と記念品が贈呈された。

その後、宮司以下各神職・参列者が分かれ、第二・第三宮、宗像護国神社祭が斎行された。

宗像護国神社祭では、福岡県護国神社坂口称宜、宗像市郡の遺族をはじめ一〇余名が参列する中、護国の英霊をお慰め申し上げると共に、遺族並びに郡市民の弥栄が祈念された。

同刻儀式殿に於いては、交通安全全講社祭が斎行され、講員皆様の今年一年の交通安全が祈念された。

午後二時からは、本殿で献茶祭が行われ、南坊流小方社中の花田みどり氏が、袱紗さばきも爽やかに御手前を披露した。

かくして三日間に亘る春季大祭も無事斎行され、春の一大行事も滞り無く終了した。



保存会による『主基地方風俗舞』

すさちほうふうぞくまい 主基地方風俗舞

歴代天皇が御即位されるにあたり、一世一代の重要御儀として執り行われる「天嘗祭」に際し、新穀を献上する齋田が、京都を中心として西方の「主基地方」東方の「悠紀地方」とで指定される慣わしとなっている。

この齋田地方の伝統風俗を基に、宮内庁雅楽部で作曲・作舞されて、大嘗祭大饗宴にのみ披露される国風舞を「主基地方」悠紀地方風俗舞と称し、門外不出が原則とされ、大嘗祭の終えたる後は一度たりとも奏される事はなく、昭和以前の全てが消滅していった。

昭和三年(一九二八)昭和天皇御即位大嘗祭に際し、福岡県早良郡脇山村現「福岡市早良区脇山」が主基地方に選定され、脇山村の産土神の「横山神社」が当大社の分祀社であった関係上、この記念すべき神楽舞を末永く後世に伝えるべく、昭和四年の主基地方風俗舞勅定記念会の設立に際し、特別の思召しを以て宮内庁より全国で唯一、当大社に御下賜いただいた。

以来、当大社田島地区の氏子青年団により春秋の大祭時に奉納され、昭和五十三年には「主基地方風俗舞保存会」が結成されて、今日まで舞われている。

浦安舞

全国の神社に於いて、大祭或いは奉祝祭などの折に奉納される舞。皇紀二六〇〇年(昭和十五年)を奉祝して制定されたもので、元宮内省業長多忠朝氏の振り付けによるものである。

神楽歌は昭和天皇の御製「天地の神に祈る朝風の海の如くに波立たぬ世を」に曲をつけたもので、千代万代の世界の恒久平和を祈念されたお歌であり、昭和天皇の御心に沿って神前に奉納されている。舞は四人で舞われ、十一単衣の装束を身にまとい、歌に合わせて太鼓・神楽笛・箏の付物により演奏される優雅な舞。

当大社では、毎年春秋の大祭時は地元玄海中学校二年生の女子が、毎月の月次祭(二日)浦安舞・十五日は豊栄舞、中祭時には巫女が奉納している。



花田みどり氏による御手前



宗像護国神社春祭

織幡神社春祭り



が流れ、参道には職や大漁旗が所狭しと掲げられ、祭り一色に染まった。

県下随一の水揚高を誇る鐘崎漁港も氏神様の例祭のこの日ばかりは漁止めとなり、早朝より多くの参拝者で賑わった。

定刻午前十一時、地元の子総代を始め、関係者多数参列の中、祭典は斎行された。

先ず太鼓のリズムに合わせて大祓詞が唱えられ、次に同神社永島宮司が祝詞を、当大社神職が奉幣詞を其々奏上し、国家・皇室の弥栄、鐘崎地区の氏子の安泰と海上安全・大漁満足を御祈念申し上げた。

引き続き永島宮司、奉幣使以下関係者が次々と玉串拝礼を行い祭典は無事終了。一同社務所へ下り直会が催され新鮮な魚に舌鼓を打ち、神人・和楽の一時を過ごした。

引き続き永島宮司、奉幣使以下関係者が次々と玉串拝礼を行い祭典は無事終了。一同社務所へ下り直会が催され新鮮な魚に舌鼓を打ち、神人・和楽の一時を過ごした。

去る四月十六日、漁業の町として有名な宗像市鐘崎に鎮座する織幡神社の春祭が斎行され、当大社より神職が奉幣使として出向した。同神社の歴史は古く三韓征伐の功臣武内宿禰が、この鐘崎で「軍旗」を織つたと言ひ伝えられ、そこから織幡神社という社名となり、武内宿禰を主祭神として奉祀したといわれる。その社名は延喜式神明帳にも記載された古社であり、かつては宗像五社(宗像大社・織幡神社・孔大寺神社・原神社・王子神社)に数えられ、地元鐘崎はもとより、宗像の人々の篤い信仰をうけた。

当日は、春うららかな陽気に恵まれ、境内には祭りを盛り上げる楽曲



王子神社祭齋行



芽吹く若葉に桜花も彩りを添える四月三日、宗像市王丸の許斐山標高二七一m山頂に鎮座する王子神社の例祭が、当大社神職奉仕の下齋行された。

王丸区では、区の行事として王子神社と共に氏神様である熊野神社(中村侃宮司)の例祭も同時に行われており、区の役員で分担し参列している。

王子神社祭は、山道に詳しい王丸区別所班長の河野次郎氏、若手の薬師班長の小西勝氏の二名が区を代表し参列した。

登山口より進むと、地元の方々が十数年前に植樹したという桜林

も美しく咲き薫り、我々の目を楽しませてくれ、おまけに道にはゴミ一つ無く、地元の努力と登山者のマナーの良さが伺われた。

祭典は、王丸区役員の御二人をはじめ、ちょうど山頂に着いた何組かの登山者も参列され、賑々しく終える事が出来た。

祭典後、お供えの神酒を頒ち一息ついて景色を見ると、宗像の山野や街並みが一望でき、誇るべき郷土「私達の街、宗像」という想いを新たにしたい。

王子神社

神郡宗像のほぼ中央、今の宗像市と福岡町の境にある許斐山の山頂に鎮座する神社で、当大社の境外摂社。

御由緒不詳であるが、鎌倉時代の古文書に既にその名が見えるので、それ以前に奉祀されたようである。

鎌倉期、宗像大宮司家の御家人化武士団化が始まると、宗像の各地に山城が築かれたが、許斐山にも許斐山城が築かれ、葛ヶ岳(城山)とともに神郡宗像の守りの要であった。現在、山の周辺部分に国有林となっているが、山頂部分は当大社の境内地飛び地境内地である。

山岳信仰の影響もあり許斐権現「許斐山神社」などの呼称もあったが、明治以降現在の社名に統一された。

御社殿は、写真の通り奥行き一尺五寸、横三尺一尺二寸、三センチの石祠。御祭神は、「天己真命」または「素戔鳴命」とも言われ、麓の王丸や八並(福岡町)の方々をはじめ、多くの登山者も手を合わせている。



を新たにしたい。

往路は急な山道であったが、帰路は尾根伝いのコースを教えて頂き、楽に下山することが出来二十分程で麓に着いた。

公民館に到着すると、既に熊野神社の中村宮司を始め参列者にお待ち頂いて居り、早速直会が王丸区・石田敏彦区長の乾杯の発声で始まり、双方がそれぞれの祭礼について語り合い、無事お勤めが済んだ事を喜び、和やかに話が弾んだ。

今回とは別に、王子神社では有志で結成の許斐山愛好会主催「許斐山まつり」の祭礼が秋にあります。別の機会に御紹介致します。

第二十七回 鶴洲会 春季奉納 吟詠大会

四月十七日、春季恒例の神賑行事吟詠大会が、鶴洲会宗家Ⅱ河野鶴洲主催で開催された。

日頃の成果を宗像大神の御神前に披露せんと、地元宗像はもとより北九州をはじめ近隣地区から約一〇〇名が参集し、当大社清明殿に於いて盛大に行われた。

大会は、先ず会員揃って本殿で正式参拝を行い、続いて松口月城先生作「宗像宮」を宗家に併せて会員一同で合吟、朗々とした美声が境内に響き渡った。

献吟後、一同清明殿へ移動し開会式が行われ、その中で永年斯道の興隆に寄与された方々に感謝状と記念品が、当大社葦津瀬より贈呈された。

その後、会員各々が順次日頃鍛錬した自慢の喉で次々と朗吟を披露した。師範の先生方も情感溢れる詩吟を力強く詠じられ、会員たちは真剣な表情で拝聴し、深い感銘を受けた様子であった。

午後三時に終了し、一同大型バスで直会会場の岡垣町「八幡屋」へ移動。当大社からは神職二名が招かれ懇親を深めた。



御神前での献吟



この吟詠大会は、平成元年昭和天皇崩御の年に開催を遠慮したのみで、今年で二十七回を数える。まだあと何年かあるが、三十回目には盛大な記念大会を行いたいとの声が、直会の席で多数挙がった。午後六時三〇分には終了、一同別れを惜しみつつ来年の再会を誓い合った。

(順不同、敬称略)
秋吉 岳洲
仲村 庄洲
山口 鶴情

宗像大社春季奉納剣道大会成績(平成16年4月4日)

区分	優勝	準優勝	三位	
個人戦	小学校1年生の部(男女混合)	田澤亮輔(日の里東)	山本裕生(赤間西)	深見雄平(玄海)
	小学校2年生の部(男女混合)	真武祐希(自由ヶ丘)	東濱貴之(河東)	元満俊明(東郷)
	小学校3年生の部(男女混合)	野中拓視(日の里東)	川副雅也(河東)	梶田晃成(東郷)
	小学校4年生の部(男女混合)	北本美波(河東)	渋谷匠吾(自由ヶ丘)	岩谷真美(玄辰館)
	小学校5年生の部(男女混合)	江田真子(河東)	瀧澤周太(赤間西)	井口舞香(自由ヶ丘)
	小学校6年生の部(男女混合)	矢野和樹(玄辰館)	武石将和(玄海)	田中孝典(玄辰館)
	男子中学生の部(全学年)	神田俊宏(城山)	毛利広樹(中央中)	新垣翔太(中央中)
	女子中学生の部(全学年)	重富晃子(河東中)	梅野由依奈(玄海)	大原祐紀(城山)
団体戦	小学校の部	河東剣道教室	自由ヶ丘少年剣道教室	東郷少年剣道教室
	男子中学生の部	河東中学校	自由ヶ丘中学校	中央中学校
	女子中学生の部	中央中学校	玄海中学校	福岡東中学校



第五十回 春季奉納 剣道大会

春のうららかな陽気に恵まれた四月四日、春季恒例の剣道大会が開催された。この大会が、御本殿横の境内で開催される『野試合』である為、選手は少しでも足場に慣れようと、早朝から竹刀を打ち合う音が神苑にこだました。午前九時の開会式には、選手・審判・保護者ら約四

〇〇名が出席し、神職よりお祓いを受け事故怪我のないようにと、宗像大神様に御祈念した。試合がはじまると開会式の静寂から一転し、日頃稽古で鍛え上げた自慢の技を披露しようと掛け声を張り上げて相手に挑み、それに熱狂する応援団らで境内は終日喚声に包まれた。約六時間に亘って繰り広げられた熱戦も、午後三時には幕を閉じ、勝利に歓ぶ者、悔し涙を流す少年剣士らが、次回こそはと決意を新たに稽古に励むことを誓った表情で神社を後にした。試合結果は左記の通り。

JAFパンフレット入れを奉納



向かって左より2名JAF社員、箄島兄弟

万が一の自動車事故の際も全国規模でのサポート展開している「JAF日本自動車連盟福岡支部」にお世話になった方も多いと思います。交通安全の御神徳が最も知られている当大社の、交通安全の御祈願を行う祈願殿ロビーには、同連盟の入会申込書会報JAFメイトが設置されている。これらを納めるものの老朽化が激しく、新たに木製で製作された。三月下旬から同連盟担当者と同大社担当神職とで数回打合せを行い、神社の雰囲気にも馴染む木製にすることに決まり、材質・デザイン・傾斜



角度など詳細を決定した。その結果、JAFの仕事に請負っている大成印刷の箄島智弘氏がデザインを担当され、更に御実家が、大川家具の職人であった為、兄の芳寿氏に製作を依頼した。最終的には写真のようなパンフレット入れが完成したが、材質は香りが良く温かみのある杉で、移動を容易にするため下にキャスターを付けた。チラシ等を掲示するためのコルクボードを備え、祈願殿の柱のサイズに合わせるなど規格外で製作された。御社頭で新調後の配布状況を観察してみると、申込書当大社の由緒書など今まで気付かなかったものが、足を止め確実に目についているというのが率直な感想である。御奉納いただきました日本自動車連盟、製作いただきました箄島芳寿・智弘兄弟に厚く御礼申し上げます。

歌手 榎原敬之さん来社



左よりマネージャーの西田さん、小倉さん、高田権宮司、榎原さん、奥村さん、倉田社長

社長の五名。

榎原さんは、以前から芸能の神としての崇敬も篤い当社に一回参拝をしたいと願っておられ、今回来福の機会があったため突然ではあったが参拝させていただいたとのこと。

神島宮司が出張中であつたため高田権宮司が応対し、本殿で正式参拝。その後、広報課神

職の案内で神宝館、高宮、第二三宮などを、およそ二時間かけてご参拝いただいた。

参拝後は、宗像大神さまの御徳に敬服されたご様子で、ありとあらゆる大神さまに関する資料、御守、御札を受けられ、今後も来福の際は是非ご参拝させていただきたいとのこと。

皆様の益々の御活躍を心より御祈念申し上げます。

春季大祭を間近に控えた三月二十四日午後三時、突然歌手の榎原敬之さん一行が来社され、正式参拝を行った。
来社されたのは、シンガーソングライターの榎原さん、「山弦」の小倉博和さん、榎原さんのマネージャー西田四郎さん、東京で榎原さんの崇敬されている国津神社恵比寿協会の奥村秀峰さん、当地九州の(株)キョードー西日本の倉田哲伸

榎原敬之

榎原さんは皆さんご周知のように、昨年スマップに「世界に一つだけの花」を楽曲提供し大ヒットさせた、シンガーソングライター。四月二十八日にはニューシングル「優しい歌が歌えない」がリリースされ、NHK「土曜スタジオパーク」あなたの声に答えますのエンディングテーマに決定している。大阪府高槻市出身。三十四歳。

小倉博和

小倉さんは、音楽界では知らない人はいない程のギタリスト。香川県高松市出身の四十三歳。桑田佳祐さんと運命的な出会いをして見出され、「稲村ジェーン」のサウンドトラック制作に参加。この時にギタリストの佐橋佳幸氏と出会い、現在の「山弦」を結成。

以後、サザンオールスターズのツアーライブに参加するのは勿論、レコーディングセッションでは、泉谷しげる、井上陽水、水室京介、福山雅治、ミスチルそして榎原敬之などの著名アーティストのレコーディングに参加されている。

「山弦」としては、NHK「夢・音楽館」のオープニングエンディングテーマの書き下ろし、読売テレビ「どっちの料理ショー」のエンディングの書き下ろし、山下達郎さんのカバーアルバムにも参加されている。



新人紹介

- ① 氏名
- ② 生年月日
- ③ 出身地
- ④ 最終学歴
- ⑤ 特技
- ⑥ 抱負
- ⑦ 皆様へ一言



- ① 清水亜矢子
- ② 昭和五十八年十一月十五日生まれ(二十歳)
- ③ 宗像市ひかりヶ丘
- ④ 福岡女子短期大学生活学科
- ⑤ 介護ホームヘルパー二級
- ⑥ 笑顔絶やさずに、元気に御奉仕します
- ⑦ 一生懸命頑張りたいと思いますので、よろしくお願ひします



- ① 小川侑希子
- ② 昭和六十年四月三日生まれ(十九歳)
- ③ 遠賀郡遠賀町上別府
- ④ 向陽台高校英数学館 北九州高校
- ⑤ 琴生田流・琴歴十数年
- ⑥ 無遅刻無欠勤
- ⑦ いろんなことを頑張りますので、宜しくお願ひします



- ① 佐藤友美
- ② 昭和六十年四月十六日生まれ(十九歳)
- ③ 京都郡刈田町神田町



- ④ 福岡県立苅田工業高校 電気科 雑用
- ⑤ 雑用
- ⑥ はやく一人前になりたい
- ⑦ まずは地名から覚え、一日も早く宗像の水に慣れたいと思います



- ① 福田祥子
- ② 昭和六十年四月二十二日生まれ(十九歳)
- ③ 宗像市池浦
- ④ 福岡県立玄界高校 普通科
- ⑤ お菓子作り
- ⑥ 周りに迷惑を掛けないようにして、立派な巫女さんになります
- ⑦ まだまだ未熟者ですが、これからよろしくお願ひします

- ① 白澤佳緒里
- ② 昭和六十年四月二十四日生まれ(十九歳)
- ③ 遠賀郡岡垣町野間
- ④ 福岡県立戸畑工業高校 情報技術科
- ⑤ バレーボール
- ⑥ 頑張つて早く仕事を覚えたい
- ⑦ これから宜しくお願ひします

大社の御神宝10 昭和の御造営②



御鏡 一面 附轆轤箱

して、これは実に相応しいものであった。

神宮の御神宝や御装束は、二十年ごとに行われる式年遷宮の際に古式のままに新調され神々に捧げられる。ここでいう御神宝とは紡績具、武器、武具などの

伊勢神宮撤下神宝の下付については、当大社の強い願望のもと、宗像大社復興期成会出光佐三会長及び宗像大社久保輝雄宮司の連名を以って願ひ出て特別に許され実現した。昭和の御造営事業の頂点をなす辺津宮本殿遷宮祭の記念と

常品類で一八九種・四九一点、御装束とは衣装などの服飾品、殿内を裝飾し神儀を飾る品々などの総称で五二五種・二〇八五点あり、付属品を含むとそれらの数は約八〇〇種・二六〇〇点に及ぶ。品々の調製には人間国宝など当代最高の美術

工芸家が奉仕し、古代の技術や美の精神を踏襲して太古の姿を今に伝えてきている。

さて、今回は、お譲り頂いた撤下神宝のうちからご紹介したい。

一、御鏡 一面 附轆轤箱
皇大神宮別宮伊佐奈弥宮御料

神宮御料の御鏡は総数三十一面あり、皇大神宮とその別宮は円形、豊受大神宮とその別宮は八花崎形を調進する。いずれも白銅鏡銅、錫、銀の合金で、表面は梅酢で磨いて光沢を出している。当大社へ下付された御鏡は径六cmの円鏡で、全体の文様から、奈良時代の唐鏡ではなく平安時代後期以降の和鏡といえる。この鏡は、紐鏡を手にするために紐緒を結ぶ部分と縁との中間にある圏線によって内区と外区に分かれているが、その文様は区分けされずに、対向した鳳凰を紐の上方へ配し、その周りには圏線をつたうように牡丹文を一周させている。鏡全体に広がっている牡丹の草花文様が誠に流麗な鏡である。御鏡の付属品として、轆轤箱と綾の入帷鏡を包むものがある。

(株)弘江組 境内整備に御尽力



御奉納いただいた車破所

高宮は、古来より宗像大神御降臨の地として神聖視され、今でも参拝者が多く跡を絶たない。そこには以前から賽銭箱がなく、お参りされる方々は磐境にお賽銭を投込んだり、下に置かれたりされていた。そこで栗材で奉製された賽銭箱をご奉納頂いたことで、参拝者の不便を解消することができた。

当大社の御神域に「木の温もり」が新たに加わった。当大社宮大工の(株)弘江組社長 花田和彦氏が、高宮の賽銭箱、第一駐車場お祓い車輛用注連縄立て、祈願者待合室のパンフレット立て、拝殿の大破串等を御奉納、境内整備にご尽力頂いた。

杉棒を立て注連縄を張り、祈願車輛用破所が新たに作られ、交通安全祈願車輛と一般参拝車輛とを区別して駐車出来るようになった。更には祈願殿・儀式殿の祈願待合室に、杉の丸太で作られたパンフレット立てが設置され、祈願を待たれる方々の目を和ませている。

(続)

浜の寄物

184

いしい ただし



第四回漂着物学会は十月十六日(土)十七日(日)に鳴き砂で有名な、京丹後市網野町で開催する。(京丹後市は、網野町と周辺の町が合併によって四月一日より発足)

日本海に面した白砂青松の美しい海岸で、鳴き砂海岸としては、日本でも最も知られたところである。砂浜を歩けば琴のような音をかなでるところから、琴引浜とか琴弾浜と呼ばれている。笈埃随筆では「石を取て投れば太鼓の音をなす」とか、「沙浜を踏立行に琴



の音を出す」。野田泉光院の「日本九峰修行日記」にも琴引浜を「ぎうぎうすうすう」と鳴る、隣りの太鼓浜も歩けば「どんどん」と鳴る。民俗者の宮本常一も下駄をはいて歩きキウキウキウという音がすると書いている。外国ではこの類の浜は、ミュージカルサンドとか、シンキングサンドという。

また町内に琴引浜鳴き砂文化館があり、鳴き砂に関する資料を集めて展示している。一階は琴引浜の自然と鳴き砂の歴史、世界と日本の鳴き砂を紹介。鳴き砂を体験できるコーナーは、各種容器に砂を入れて実際に音を再現できる。

二階は、京都の東山学園高等学校の地学部が安松貞夫先生の指導で、琴引浜の漂着物の研究を行っており、その展示がある。

町の観光目玉であり琴引浜は禁煙にもなっているし、ゴミにも非常に神経を使っている。ただ琴引浜に入るところは、どこも有料の駐車場になっているのが気にかかる。網野町に入る前日に福井県小浜市の矢代で行われる手杵祭を見てきた。昔この矢代に唐船が漂着、船には王女と従者八名が乗っていたが、長い漂流に体も心もぼろぼろであった。言葉も通じない。船には金銀財宝が積まれていた。これを知った浦人は手杵や弓を持って襲つて財宝を奪つたが、村人はこれを悔い、また天罰を恐れて、その後「手杵祭を行なっているという。祭りは悲しみに包まれたような雰囲気があり、ただ打ちならされる太鼓と、棒を地面に叩きつける音のみである。はじめてこの祭りを見て十数年が経過していた。

更に、杉材で構成されている拝殿には、同材にて大型の碓い串が奉納され、重要文化財に相応しい景観となった。
全て良質の木材で作製され、随処に職人の「匠の技」が光る。それらは大社の境内に違和感無く溶け込んでいる。木には鉄筋・コンクリートには無い「温かさ」や「安らぎ」を人々に与えてくれる。今一度、我が国の先人が永年培ってきた「木の文化」を見直し、後世に確実に伝えようとしている花田社長のメッセージが込められているような気がする。



賽銭箱(高宮斎場)



大碓串(拝殿)



祈願案内板(表参道)



パンフレット立て(祈願殿内)

第五一三回

宗像大社歌会詠草

大野展男選 毎月25日メット



春の夜を荒れてすぎゆく西の風一夜西とふ呼び名はやさし

〔評〕 菅原の漁師たちが言っていた風の名で、今ではテレビなどでも普通に使われている春一番は強い南の風のことだが、これは

○ 涅槃西風並びて遊女漁夫の暮

の句にある伊豆や鳥羽あたりの船詞が、俳句の季語として用いられているのに近い二夜西は船詞なのだろう。ローカル性のある面白い言葉であり、杉田さんは言葉にふさわしい一首に仕上げている。私も一度使ってみた言葉。

大井 木原 ふさ子

これと言ふ行く当もなく歩みきて薬師祠の白梅仰ぐ

〔評〕 梅日和とも言うべき今年の二月末から三月初めにかけての暖かさに誘われた作者の或る一日の姿であろう、掃蕩つよくな気分が感じられる。

○ ふところ手や、や、寒し妻を家に置きて梅に遊べは

と戦後すぐの昭和二十三年に宮村が詠った、くくまるような心とは対極にある歌である。

吉留 高山 信子

うらら日にさそわれハガキ出しにゆき花屋で花買ひ散髪もする

〔評〕 ○ 本代を送り四枚切符買ひ散髪もして今日散財す

と私が詠ったのと同じ心境ではないか、加齢すると外出することも買物いささかでもすることも心の鬱を散じてくれる。私の実用一点張りの行為と違い高山さんの「花屋で花買ひ」には女性らしさとロマン性があつて優しい一首である。

神湊 中山 千鶴子

いざなひてあと幾春と見し梅も姉るませずば訪ふ事もなし

朝野 藤井 浩子

しきり降る涅槃雪浴び最後なる伯父の柩を見送りてをり

〔評〕 中山さんには過ぎし日に逝った姉を、藤井さんは肉親最後の柩の伯父と、身内の死に寄せる思いを詠つて味わいのある作品である。

大島 越智 治子

あふれ咲く肴戸の椿の太木に啼くひよどりの声仰々し

田野 森 つるの
立春を過ぎたる庭に伸び出でて編笠百合は苔を掲ぐ

福岡 池浦 千鶴子

視力また弱まりたるか対岸に見し白鷺はビニールなりき

田野 森 甲子

熱き湯に足を浸して揉みくるるデイサービスに癒されてをり

池田 森 龍子

味噌汁に刻みて浮かす路の臺春の足音厨に広がる

日の里 大和 美由紀

神山の水の流るる村里に正午を報ずメロディー流る

津屋崎 佐々木 和彦

透明な水をコップに注ぐ時砂より湧き出る地下水想ふ

東旭ヶ丘 天野 玲子

霊ふりし庭のパセリを噛みたれば口にひろがる砂の感触

鐘崎 安永 久子

病院の庭に紫陽花芽ふきたり主なき吾が家の樹も芽吹きあふ

牟田尻 横山 雪子

舅の言ひし「日に三千の食材」を指針となして健康保つ

福岡 中村 勇

故郷は近きにあれど籠る日の多きこの頃は聞くのみとなる

日の里 石松 弘次

杖つきてそぞろ梅花の下に寄りバスを待つ間を豊かさにする

日の里 神田 一敏

薄黒き土より出し土筆の芽乙女の乳房ふくらむに似る

光岡 河村 久光

残暑まだきびしき夕べにカセットの歌聞くテープを幾度もかけて

浮羽町 向 則正

紅白の沈丁花の花咲きいでて顔を寄すれば強き香のす

選者詠

昼間見て夕見て波の量なき東京湾よ明日荒れてあり

ほの明る水槽の底砂いろとなりて鱗はかたちを保つ



宗像大社歌会 俳句作品集(四八八)

福岡 森 清

鶯舞ふ春めく雲の広これり

光岡 井上 嘉治

花吹雪浴びて若駒跳ねにけり

日の里 花田 いつ枝

春あらし高炉微塵も動くなし

東郷 宗風社俳句会

麗らかなや野鳥かなでる野地山地

吉田 杏子

望まれて嫁ぎゆく娘や梅開く

三浦 美千代

白梅は空の青にもそまらずあり

田中 雨葉

千潮は千里千里か竹の秋

木原 房子

雲を漏る春陽さららの遠賀川

編集後記

購読料の振込みを続々と受けています。皆様の実心からなる御奉賛として、紙面の充実のためにお役に立てたいと存じます。心より厚く御礼申し上げます。▼先月初めから十日間、沖ノ島に勤務して参りました。久しぶりの海中での仕事、神職なんだなあと身をもつて実感しました。▼この時期は沖ノ島近海で漁をする船も多く、晩には連日漁師料理に舌鼓を打ち、「やっぱり自分で魚を捌くより人に捌いてもらった魚の方が美味しい」と感じ、最近忙しい時は外食したいという共働きの妻の気持ちに海水よりも身に沁みました。(M.O)

宗像大社事務所 発行所

〒811-3505 福岡県宗像市田島
電話 0940-62-1311(代)
発行人 伊藤佳和
編集人 大塚宗延
制作 ジーエータップ
印刷 セネラルアサヒ

定価1年送料共1,000円